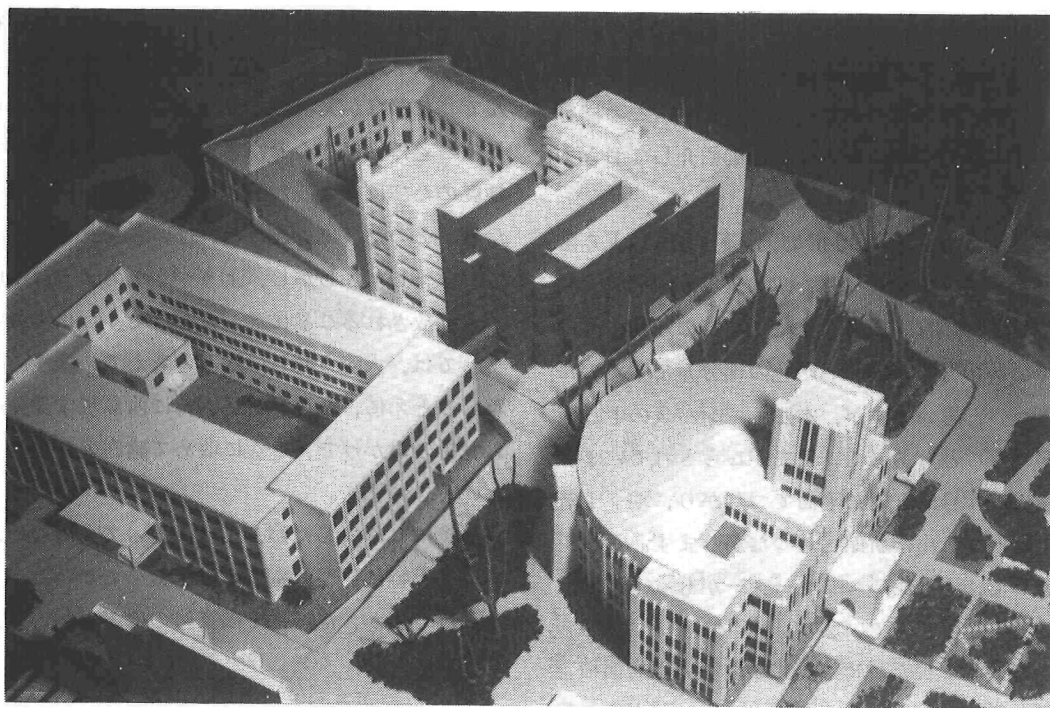


東京大学理学部

廣報

化学新館（C棟）のモデル



目次

| | |
|------------------------------|---|
| 化学関係建物の新築について……………大木道則………… | 1 |
| —数学者の見た日本……………E. Viehweg………… | 2 |
| <学部消息>…………… | 4 |

化学関係建物の新築について

大木道則(化学)

現在(昭和56年12月18日),時計台裏の旧施設部(旧地震研究所)建物がこわされていることは、大部分の方が御存知と思いますが、ここに理学部校舎C棟(仮称)が建設されて、化学教室の大部分と、地殻化学実験施設ならびに分光化学センターの一部とが入居することになります。この欄をかりて、このC棟のあらましを御紹介しておきます。

C棟は、延面積3790㎡で、地下1階・地上6階・一部7階の建物となり、昭和57年末頃完成、昭和57年度内には入居の予定です。この建物の外観はモデルの写真(表紙・暗色の部分)でご覧いただきたいと思いますが、本郷キャンパスの中心地区ということもあって、工夫がこらされています。各廊下は4号館と同じ平面でつながり、地下1階と1階とは、化学新館ともつながります。これに関連して、4号館にエレベーターがもう1基増設されることになっています。

しかし、C棟だけでは、化学教室の現有面積、地殻化学実験施設、分光化学センターなどを全部収容することは不可能です。そのため、最終的には、化学館の旧館(略してA棟)を改装して入居することになっています。また、工事が完成した時は、中庭にあるアイソトープ研究室もとりこわされて、A棟の中に収容されることになっています。化学教室としては、A棟を改築することを原案としておりましたが、建築関係の方々の強い希望によって、A棟は、少くともしばらくの間、保存されることになったわけです。

思えば、化学教室としては、長年の希望がやっ

とかなえられることになりました。大正初期に建設された建物(A棟)が老朽化したとの理由によって、化学教室が改築の希望を述べだしたのは昭和40年頃からだったでしょうか。しかし、その希望は、大学紛争、その上立川移転問題などがからんで、なかなか実現しませんでした。その中でも、A棟の老朽化は進んでいきます。天井が落ちたり、地震のたびにガス洩れがしたり、窓枠が落ちてきたり、そのたびに、われわれはいらだたしきを感じてきました。しかし、ようやくそのような事態から解放されることになったわけです。化学教室としては、大変うれしいことと考えています。これもひとえに、歴代学部長、特に西島現学部長のお骨折のおかげで、ここに改めて感謝の意を表したいと思います。

最後になりましたが、工事に従って、周辺地区の方々、特に物理教室には御迷惑をおかけしているわけですが、なにとぞ御寛恕のほどお願い申し上げます。

一 数学者の見た日本

E. Viehweg (ドイツ)

数週間滞在したにすぎない国についての印象を書くというのは難かしい仕事である。とくに、数学者には困難である。社会学者ならまだましのだろうが、とにかく、いくつかの感想を書きつづってみようと思う。

日本に来る前に、私は日本について全く相反する印象を持っていたのである。一つには、日本の伝統、独自の宗教、文化、歴史一般についてのおぼろげな理解があった。陳腐な言い方に流れるが、茶の湯、キモノ、神社仏閣等々…、それに反して、日本は最も高度に発達した先進工業国というイメージがある。発達したオートメーション、電子機器がおびただしく使われ、日常の生活の隅々に迄用いられているという…。コンピューター、無線関係もすごいという。

ドイツにいる時は、この二つの面がいかにして両立可能かがどうもわからなかった。然し、東京に着いてみると、まさに両者が併存している現実を知った。

最もそれが典型的に現われている場所は、秋葉原であろう。この小さな街には、最先端のハイファイ、ポケット電子計算機、高級カメラ、時計があふれ出ている。ここにあるものは、ヨーロッパでは、大きな特別の専門店にしかおいていない。秋葉原では、小さな店に無雑作にむき出しの形で、(ケースにいれられているのではなく)売られている。しかも、騒々しい音楽をいつも流している。その雰囲気は、パリの蚤の市か、東京の卸売市場のそれと酷似している。

新宿の高層ビルの立ち並ぶ通りには、大きなホ

テル、レストランが続くが、一步小径に入ると、小さい飲屋、小料理屋が軒を並べ、数人の人々がそこでにぎやかにやっているのが見える。

これらは皮相な観察にすぎないだろう。しかし、封建的な農業国から、先進工業国へと極めて短期間に変容した国には、代表的な情景と言うことができよう。

少く共、東京は、労働者にとって、我々の国より状況は厳しいものようだ。小さな店や食堂の従業員は言うに及ばないが、皆、一日の労働時間は長いし、休暇はわずかの日数しか貰えないでいる。一方、こういう現実を甘受しているようである。それは、こうして働くことにより、生活が向上し、国が発展していくということを実感しているからであるし、今次大戦後の窮乏の経験と比べたりもしているからであろう。

私達は、東京に小さな家を借りた。東京大学の数学者がこれを借りれるようアレンジしてくれた。多分典型的な東京市民の日常生活が観察できたと思う。小さな住宅が軒を接して並び、非常にきれいに整えられ、各種の家具電気製品をもち、空調を持つ家も散見する。ここの住民は非常に親切であった。私達にとって、交際するのは難しかったが、とにかく親切にしてくれた。大失敗だったのは、日本語を全然知らなかったことだった。然し乍ら、どこでも、道をたずねる時や、商店や食堂で話が通じないときには、必ず進んで助けてくれる人がいた。店や事務所の人々は、私達を相手する為にひどく時間をとられときにも、決して怒るということがなかった。

6週間の滞在中努めて日本を知ろうとした。いくつもの神社、寺、公園、庭園、城、史跡を見てまわった。また、東京で最も現代的な所も見かけたが、工場を見学できなかったのが残念だった。

色々な所で、日本の家庭の人々、子供達とあった。ヨーロッパでこれ程多くの人を見ることは稀である。面積の割には巨大な人口を持つ日本だから当然といえはえる。とくに、東京は、世界でも一、二の巨大都市である。しかし、富士山に登ったときでさえ、想像を絶する（他の同程度の高山山頂ではあり得ない）人数の人がいたのである！富士登山は、北斎の版画を見て以来の念願だった、といってもよい。

色々と言国について表面的なことを、極く親しい友人への手紙のように書きつづってきたことは失礼だったかもしれない。そうは言っても、できるだけ印象について述べ、疑問は疑問として問うてみるこそ、一つの方法であると思う。

（中略）

所で、私の専門分野では、日本人数学者の持つ一問題が典型的に出ている。即ち、欧米の数学者は、日本の数学者の発展を忠実に追うことをして

いないし、私の専門でも、日本人の業績を勉強しこの傾向を変え始めたのは最近のことに属する。いずれにせよ、欧米の大多数の数学者は、日本の数学雑誌をろくに読まないし、日本で得られた結果に注意を払わないように思われる。日本人数学者が、パリ、ボストン、プリンストン、あるいはボンに出かけて説明しない限り、仲々欧米では知られない。

勿論、これは大変な誤りである。今年の夏、東京大学で開かれたシンポジウムでもそのことがよくわかるのである。日本の数学がいつも無視されているわけではない。日本でなされた研究のあるものは、軽視しえない重要性を持っているから当然である。しかし、無視しようという傾向のあることは否めない。

さて、この度の日本滞在の経験をふまえてこう言いたいのである。即ち、欧米の数学者は、日本に来て、日本でなされた研究について学び、日本の数学者との研究交流を密接に持つよう努力しなければならない、と。 （訳、飯高 茂）

付記： Viehweg 氏は昭和56年7月13日から8月26日迄、客員研究員として本学理学部数学教室で研究をした。

《学部消息》

教授会メモ

11月18日（水）定例教授会

理学部 4号館 1320号室

- (1) 前回議事録承認
- (2) 人事異動等報告
- (3) 会計委員会報告
- (4) その他

12月16日（水）定例教授会

理学部 4号館 1320号室

- (1) 前回議事録承認
- (2) 人事異動等報告
- (3) 昭和57年度文部省内地研究員の受入れについて
- (4) 寄附の受入れについて
- (5) 人事委員会報告
- (6) 教務委員会報告
- (7) その他

次回以降予定：

昭和57年 1月20日（水）午後1時30分より

2月17日（水） 同 上

3月17日（水） 同 上

昭和57年度科学研究費補助金公募締切らる

昭和57年度科学研究費補助金の公募については、 おりである。

前号（昭56.11, 13巻4号）に照会され、このほど なお、交付内定については、本年度と同様、全締切られ、提出された研究計画調書件数は次のと 種目について5月下旬頃行われる見込とのこと。

昭和56年12月4日現在

| 種目名 区分 | が 人 | | 自然災害 | | 環境科学 | | エネルギー特別研究 | | | | 特定研究 | | 総合研究 | | 一般研究 | | | 奨励研究 | 試験研究 | | 計 |
|-----------|------|-----|-----------|-----|------|-----|-----------|-----|-----|-----|-----------|-----------|-------------|-----|-------------|--------------|-------------|------|------------|-------------|----------------|
| | 特別研究 | | 特別研究 | | 特別研究 | | エネルギー | | 核融合 | | (1) | (2) | (A) | (B) | (A) | (B) | (C) | (A) | (1) | (2) | |
| | (1) | (2) | (1) | (2) | (1) | (2) | (1) | (2) | (1) | (2) | (1) | (2) | (A) | (B) | (A) | (B) | (C) | (A) | (1) | (2) | |
| 理 学 部 | 2 | 2 | (1) 2 | | 2 | 3 | | 1 | 1 | | (1) 11 | (1) 20 | (13) 26 | 7 | (2) 14 | (11) 52 | (10) 99 | 50 | 2 | (3) 21 | (42) 315 |
| 全 学 | 17 | 46 | (3) 11 | 6 | 23 | 11 | 20 | 30 | 9 | 14 | (6) 76 | (2) 99 | (61) 171 | 42 | (41) 137 | (124) 499 | (61) 863 | 384 | (11) 51 | (31) 280 | (340) 2,789 |

() は継続の件数を示し、内数である。

行 事 予 定

12月28日（月）御用納め

1月4日（月）御用始め

1月16日（土）
1月17日（日） } 共通第一次入試

3月4日（木） } 第二次学力試験

3月5日（金）

3月27日（土）卒業式

3月29日（月）学位記授与式

名誉教授との懇談会

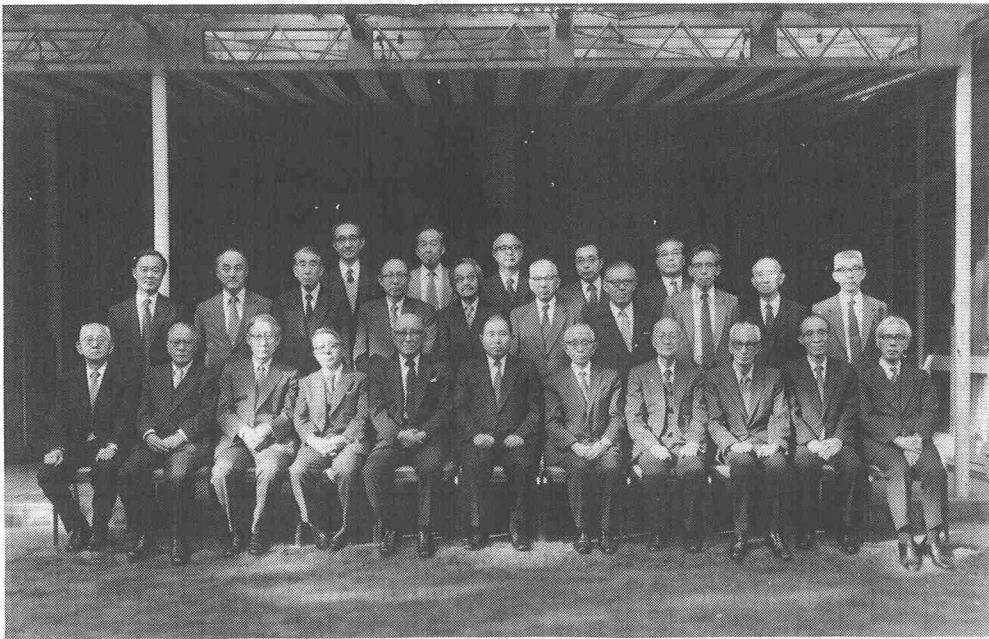
11月21日（土）12時30分より、学士会分館において、理学部恒例の理学部関係名誉教授の先生ならびに平野総長をお招きしての懇談会が午餐をかねて行われた。

会は、最高齢者である辻村太郎先生（91歳）をはじめ、今年の文化功労者になられた森野米三先生ほか、多数の先生方と西島学部長および植村・田丸元学部長などおおよそ40名の出席を得て終始なごやかに盛会であった。

また、黒田教授（附属分光化学センター長）による「分光化学について」と題する特別講演も行われた。

先生方の御活躍の御報告等のもとより、今年は全学の懇談会が行われなかったためか、本懇談会は来年度以降もぜひとも継続して欲しいとの御要望がとりわけ印象的であった。

各々、理学はもとより本学の更なる発展と健康と再会を誓い、閉会を惜しみつつ午後4時散会した。



理学部名誉教授懇談会から

さきに、学内広報にも掲載されました恒例の本学部名誉教授懇談会（11月21日（土）学士会分館）で、各先生の近況ご報告がありました中に、物理の山内恭彦先生（元理学部長）から、最近登山をして作られた俳句のご披露がありました。

ななじゆうく にせんろっぴやく れーどしー

山内先生これを解説して（御歳）79才、（標高）2600 m、（飲んだ沢水の温度）0℃を表わしており、題して“年寄りの冷水”と結ばれました。

名誉教授の先生方の益々のご健勝をお祈りいたします。

（事務長補佐（総務担当）神戸）

1981年9～12月学部長と理職との交渉

理学部長と理学部職員組合との交渉は、9月17日（定例）、9月29日（臨時）、10月15日（定例）、11月26日（定例）及び12月17日（定例）に、理学部会議室で行われた。出席者は、理学部側から西島学部長、各評議員、田村事務長を含む数名、組合側から伊藤委員長（9、10月）、福山委員長（11、12月）以下10数名であった。交渉の主な内容は、以下のとおりである。

1. 定員外職員の定員化について

理学部に勤務している定員外職員（日日雇用職員）の実情が組合側から詳細に説明された。そして、特に在職12年に達する定員外職員の速やかな定員化のために、学部長は格別の努力をして欲しいという要望が組合側から出された。この要望に関して、学部長と組合の間で精力的に話し合いが行われた結果、両者は基本的合意に達することができた。学部長は合意された事項が実現できるよう責任をもって努力する旨表明し、組合側は学部長の誠意ある態度を高く評価するとともに実現のために一層努力していただきたいと述べた。（9、10月交渉）

2. 人事院勧告の完全実施について

国家公務員の給与に関する人事院勧告が今年度は完全実施されないかも知れないという見方が流布されている現状をふまえて、組合側から要旨以下のような主張がなされた。「人事院勧告制度は、国家公務員のストライキ権剥奪に対する代償措置として政府が設けたものである。従って、人事院勧告の完全実施は政府の義務である。学部長も完全実施のために努力されたい。また、平野総長が完全実施のために努力するよう、学部長からも申し入れて欲しい。」

このような組合側の主張について、学部長は「人事院勧告の完全実施は私も希望している。」という見解を表明した。（9、11月交渉）

3. 定員外職員の定員並待遇について

定員外職員の定員化が難しい現状において、少なくとも定員並の待遇を保障してほしいという組合側の主張に対して、学部長は、「定員外職員が定員並の待遇を受けられることを目標として規則で許される範囲で努力する。昨年度行なった待遇改善の努力は今年も続ける。」と述べた。

4. 「教務に関するアンケート」について

標記の件につき、飯田教務委員長から説明があった。組合側からの質問にこたえて、飯田委員長は個人の資格としての発言であることを前置したうえで、「アンケートにもらわれている項目について、ひろく行政職員からの積極的な意見も歓迎する」と述べた。（12月交渉）

5. その他

上記の事項以外に、定員削減、定年制、特昇、教務職員問題等について幅広く意見が交換された。

なお、1号館中庭の運動コートについては、7月の学部長交渉の結果（「理学部広報」第13巻3号）にもとづき改修がほどこされ、秋の日差しのもとでバレーボール大会が開催された。

外国人客員研究員報告

| 所属 | 受入れ教官 | 国籍 | 氏名 | 現職 | 研究期間 | 備考 |
|----|-------|-------------|--------------------|----------------------------|-------------------------------|--|
| 生化 | 酒井教授 | アメリカ | Melanie M. Pratt | ハーバード医学大学 研究員 | 57. 1. 15) 57. 7. 15 | 生物科学・園・ 国際交流基金 |
| 地物 | 岸保教授 | インド | A.K. Sen Sarma | インド気象台 | 56. 10. 1) 57. 3. 31 | 日本学術振興会 インド科学アカ デミーとの科学 者交流事業 |
| 数学 | 落合助教授 | アメリカ | Robert Greene | カリフォルニア大学 教授 | 57. 8. 15) 57. 10. 15 | 日本学術振興会 短期研究員 |
| 化学 | 田丸教授 | 中華人民 共和国 | 彭少逸 | 中国科学院煤炭化学 研究所研究員 | 56. 11. 24) 56. 12. 2 | 日本学術振興会 中国科学院との 科学者交流事業 |
| 地理 | 小堀助教授 | イタリア | V. Langella | ナポリ東洋大学教授 | 56. 11. 15) 56. 11. 29 | 日本学術振興会 イタリア学術研 究会議との科学 者交流事業 |
| 化学 | 近藤助教授 | アメリカ | Andrew J. Yencha | ニューヨーク州立大 学準教授 | 56. 12. 1) 57. 1. 15 | 日米科学協力事 業 |
| 数学 | 伊藤教授 | アメリカ | Hans F. Weinberger | ミネソタ大学教授 | 56. 6. 5) 57. 7. 15 | 日本学術振興会 |
| 物理 | 西島教授 | ソビエト | A.N. Tavkhelidze | モスクワ国立大学教 授 原子核研究所所長 | 57. 2. 1) 57. 3. 31 | 文部省外国人研 究員 |
| 物理 | 西島教授 | 中華人民 共和国 | 余揚政 | 厦門大学講師 | 56. 12.) 57. 3. | 中国政府派遣研 究員 |

毎月 1 日は

「省エネルギー」

の日です。

人 事 異 動 報 告

| 所属 | 官職 | 氏 名 | 発令年月日 | 異 動 内 容 | 備 考 |
|-----|------|---------|------------|---------|------------------|
| 植物園 | 助 手 | 大 場 秀 章 | 56. 11. 1 | 昇 任 | 東大・総合研究資料館助教へ |
| 情 報 | 助 手 | 横 川 完 治 | 56. 11. 5 | 辞 職 | |
| 化 学 | 講 師 | 濱 口 宏 夫 | 56. 11. 1 | 昇 任 | 理学部助手より |
| 地 理 | 助教授 | 米 倉 伸 之 | 56. 11. 16 | 昇 任 | 理学部講師より |
| 人 類 | 講 師 | 平 井 百 樹 | 56. 10. 1 | 併 任 | 本務：総理府放射線医学総合研究所 |
| 地 物 | 助教授 | 中 澤 清 | 56. 11. 1 | 併 任 | 本務：京都大学理学部助教 |
| 情 報 | 助 手 | 山 口 和 紀 | 56. 12. 1 | 採 用 | |
| 植 物 | 助 手 | 佐 藤 直 樹 | 56. 12. 1 | 採 用 | |
| 動 物 | 助 手 | 赤 坂 甲 治 | 56. 12. 1 | 採 用 | |
| 生 化 | 助 手 | 稲 垣 冬 彦 | 56. 12. 15 | 辞 職 | |
| 物 理 | 助 手 | 高 橋 令 幸 | 56. 12. 15 | 復 職 | |
| 地 物 | 教 授 | 上 田 誠 也 | 56. 12. 1 | 併 任 | 本務：震研教授 |
| 中間子 | 助教授 | 南 園 忠 則 | 56. 12. 1 | 併 任 | 本務：大阪大学理学部助教 |
| 中間子 | 助教授 | 谷 川 庄一郎 | 56. 12. 1 | 併 任 | 本務：筑波大学助教 |
| 中間子 | 教務職員 | 久 野 良 孝 | 56. 11. 1 | 採 用 | |

 ◎泥棒がねらっている (盗難注意) /

本郷構内は泥棒天国といわれています。いたるところで泥棒 (盗難) の被害にあっています。あなたのちょっとした注意で被害をくいとめられます。

～最近被害続出～

海外渡航者

(11 月)

| 所属 | 官職 | 氏名 | 渡航先国 | 渡航期間 | 渡航目的 |
|-----|-----|-------|-------------------|---------------|---|
| 数学 | 教授 | 田村 一郎 | フランス | 11. 3～11. 27 | 葉層構造論に関する研究連絡のため |
| 情報 | 教授 | 国井 利泰 | アメリカ合衆国 | 11. 8～11. 25 | パターン分析と画像データベース管理のためのコンピュータアーキテクチャワークショップ並びにコンピュータソフトウェアと応用第5回国際会議出席及び情報科学に関する研究連絡のため |
| 情報 | 助手 | 坂村 健 | 中華人民共和国 | 11. 28～12. 6 | マイクロコンピュータの関連技術に関する日中技術交流のため |
| 植物 | 教授 | 飯野 徹雄 | アメリカ合衆国 | 11. 7～11. 15 | 日米科学技術協力事業「組換えDNA」にかかわる日米合同ワークショップ「真核細胞へのDNAの移入」出席のため |
| 植物 | 教授 | 古谷 雅樹 | 中華人民共和国 | 11. 5～11. 21 | 植物生理学に関する調査研究のため |
| 素粒子 | 助教授 | 折戸 周治 | スイス, ドイツ 連邦共和国 | 11. 3～11. 24 | 国際協同実験—電子・陽電子衝突実験及びシャワーカウンターのテストのため |
| 動物 | 教授 | 江上 信雄 | エジプト | 11. 28～12. 8 | 放射線生物学に関する調査研究のため |
| 数学 | 教授 | 藤田 宏 | 中華人民共和国 | 11. 25～12. 16 | 応用解析の研究実施のため |

(12 月)

| | | | | | |
|----|-----|--------|----------------|----------------------|--|
| 化学 | 助教授 | 原口 紘 炏 | アメリカ合衆国 | 12. 26～ 57. 1. 13 | 1982 年プラズマ分光学冬期会議出席及び無機分析化学に関する研究調査のため |
| 物理 | 教授 | 宮本 健郎 | オーストリア | 12. 5～12. 20 | 国際原子力機関 (IAEA) INTORワークショップ出席のため |
| 動物 | 助手 | 加藤 邦彦 | アメリカ合衆国 | 12. 4～12. 15 | 「発癌性試験における小型魚類利用」に関するシンポジウム出席及び放射線生物学の研究連絡のため |
| 数学 | 助手 | 鈴木 貴 | フランス, 連合 王国 | 12. 12～12. 29 | 第5回応用科学と工学における計算法に関する国際会議出席及び応用解析に関する研究連絡のため |
| 数学 | 助教授 | 松本 幸夫 | アメリカ合衆国 | 12. 28～ 57. 1. 8 | 日米科学協力セミナー「低次元多様体の位相幾何学セミナー」本会議及び低次元トポロジー研究集会出席のため |

| 所属 | 官職 | 氏名 | 渡航先国 | 渡航期間 | 渡航目的 |
|----|-----|-----------|---------|----------------------|---|
| 数学 | 助手 | 上 正 明 | アメリカ合衆国 | 12. 28～ 57. 1. 8 | 日米セミナー「低次元多様体の位相幾何学」出席のため |
| 化学 | 教授 | 不 破 敬一郎 | アメリカ合衆国 | 12. 25～ 57. 1. 7 | 金属代謝研究の打合せのため |
| 地物 | 助手 | 中 村 一 | アメリカ合衆国 | 12. 17～ 57. 3. 26 | 「大規模山岳系の大気大循環に及ぼす影響—モンスーン, プロッキング, 突然昇温について」に関する共同実験実施のため |
| 物理 | 助教授 | 釜 江 常 好 | アメリカ合衆国 | 12. 25～ 57. 1. 10 | 日米科学協力事業「電子・陽電子衝突型加速器による新粒子検出実験」のため |
| 数学 | 教授 | 岩 堀 長 慶 台 | 湾 | 12. 27～ 57. 1. 7 | 代数学に関する調査研究のため |

昭和56年4月13日付理学博士の学位授与者（2名）

| 専門課程 | 氏名 | 論文題目 |
|------------------|---------|------------------------------|
| 学位規則第3条 第3項該当 | 長 井 嗣 信 | 静止衛星高度における磁気圏嵐の特性 |
| 同 | 田 中 秀 文 | 日本の火山岩と土器による過去3万年間の地球磁場強度の研究 |

昭和56年5月11日付理学博士の学位授与者（8名）

| | | |
|------------------|---------|--|
| 生物化学 | 高 市 眞 一 | 光合成的に生育した紅無イオウ細菌 <i>Rhodospseudomonas sphaeroides</i> における培養条件による菌体内電子伝達ヘムタンパク質の含有量及び光捕集バクテリオクロロフィルの変動 |
| 地質学 | 高 橋 正 樹 | 大崩山珪長質火成複合岩体の地質学的研究 |
| 学位規則第3条 第3項該当 | 樫 田 昭 次 | ヤーン・テラー効果によって誘起された $K_2 PbCu(NO_2)_6$ の逐次構造相転移 |
| 同 | 藤 井 良 一 | 沿磁力線電流の特性と発生機構 |
| 同 | 江 島 洋 介 | 紫外線照射精子によるウニ胚の発生異常の研究 |
| 同 | 中 島 弘 | 新17GHz 太陽電波干渉計の開発と、上昇運動を伴うリムバーストの観測 |
| 同 | 西 川 青 季 | 射影葉層構造の留数と特性類 |
| 同 | 古 森 雄 一 | 超ウカシュヴィッツ命題論理 |

昭和56年6月8日付理学博士の学位授与者（4名）

| | | |
|------|---------|--|
| 生物化学 | 三 隅 昌 朗 | 抗生物質バイオマイシン, カナマイシンの作用機序よりみたペプチジル tRNA 転位反応の機構について |
|------|---------|--|

| 専門課程 | 氏名 | 論文題目 |
|------------------|------|---|
| 学位規則第3条 第3項該当 | 藤森 淳 | CeHx の電子構造と電子格子相互作用 |
| 同 | 内田 弘 | 発光分析用光源としての誘導結合プラズマの評価 |
| 同 | 清水 隆 | テトラヒメナピリホルミス織毛ダイニンアデノシン3リン酸分解酵素の学的諸性質に関する研究 |

昭和56年7月13日付理学博士の学位授与者（9名）

| | | |
|------------------|-------|--|
| 物理学 | 酒井 明 | 圧力下に於ける液体 ^3He の比熱に関する研究 |
| 生物化学 | 佐藤 直樹 | アナベナ・バリアピリスにおける脂質の合成とその温度による制御 |
| 相関理化学 | 田中 利典 | 植物におけるリン脂質交換タンパク質の研究 |
| 同 | 井戸 栄治 | ニワトリ α -フェトプロテインに関する生化学的研究 |
| 学位規則等3条 第3項該当 | 鈴木 貴 | 放物型方程式 $u_t + A(t)u = 0$ の全離散有限要素近似 |
| 同 | 新井 重昭 | 進行波型線型加速器における非同調効果 |
| 同 | 正木 功 | 高温プラズマ中での輻射輸送 |
| 同 | 石川 廣 | 四塩化チタンを利用する新しい有機合成反応の研究 |
| 同 | 庄司 俊明 | F ₄ 型 Chevalley 群の研究 I. F ₄ 型 Chevalley 群の Springer 表現 II. F ₄ 型 Chevalley 群の Green 多項式 |

昭和56年9月28日付理学博士の学位授与者（7名）

| | | |
|------------------|-------|--|
| 数 学 | 松田 潔夫 | 階数2の $\Gamma_0(N)$ に関する Siegel 尖点形式に対応する Dirichlet 級数の有理性について |
| 物理学 | 中島 一久 | 入射運動量 1.06, 1.28, 1.39 および 1.49 GeV/c での $K_n^+ \rightarrow K_p^0$ 反応における偏極度測定実験 |
| 理球物理学 | 田中 基彦 | 磁気圏尾におけるプラズマ波動不安定と異常電気抵抗 |
| 植物学 | 丹生谷 博 | ヒトヨタケにおける子実体形成制御に関与する、グルコース代謝を中心とする生化学的経路の研究 |
| 相関理化学 | 中根 英昭 | CO ₂ レーザーによる CH ₃ F の振動励起と緩和の研究 |
| 学位規則第3条 第3項該当 | 呉 建煥 | 韓半島南部の海成段丘とその変位 |
| 同 | 並河 一道 | 反強磁性酸化ニッケル単結晶による低エネルギー電子回折の交換反射に関する研究 |

昭和56年10月19日付理学博士の学位授与者（1名）

| 専門課程 | 氏名 | 論文題目 |
|------------------|------|---------------------------------|
| 学位規則第3条 第3項該当 | 島崎幸雄 | エンドウフィットクロムの光変換過程および暗反応の分光光学的解析 |

大学院修士課程修了者氏名（理学系研究科）

昭和56年9月30日付

| | |
|-----|------|
| 物理学 | 富永正弘 |
| 化学 | 李旭 |
| 同 | 白鋒銓 |

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。
前号は13巻4号です。お詫びして訂正します。（い）

あなたです！

火事を出すのも

防ぐのも

編集：

| | | | | |
|----|----|------|----|------|
| 飯高 | 茂 | (数学) | 内線 | 4053 |
| 矢崎 | 紘一 | (物理) | | 4123 |
| 小平 | 桂一 | (天文) | | 4258 |
| 露木 | 孝彦 | (化学) | | 4357 |
| 尾本 | 恵市 | (人類) | | 4482 |
